

# 営農ファイル

## 農産園芸部門

### 農作業メモ

#### 早期水稲

(※植え付けは4月1日を基準にして記載しています。)

1.生育・水管理

○中干し後は走水の後、間断灌水を行います。

○穂肥は幼穂長1cm(出穂15〜20日前)を目途に行いましょう。

○いもち病を確認したら速やかに防除しましょう。

キシユウスズメノヒエ撲滅作戦!

1.畦畔のこまめな草刈徹底

○雑草を水田内に残さず取り除きましよう。

2.キシユウスズメノヒエに効果のある除草剤

○毎年キシユウスズメノヒエが発生する圃場では、ボデーガードプロ(1キロ粒剤・フロアブル・ジャンボ)

○水田内でキシユウスズメノヒエの発生が見られたら、クリンチャーEWを散布しましょう。

#### ハウス胡瓜

日差しが強くなっているので、日中はハウス内の温度を極力下げ、きゅうりの消耗(蒸散)を減らす管理を行ってください。また、多回数灌水に努めてください。

病害虫の防除は、温度管理、湿度管理、草勢維持に努め病気の出にくい環境を作ることが大切です。併せて、農薬防除ローテーションによる散布を行います。ハウス内外の除草も行ってください。

きゅうり黄化えそ病(MYSV)の媒介虫のミナミキイロアザミウマが増加しています。防除の徹底及び、発症株の早期抜根の徹底、栽培終了後は早急に片付けを行い次作に備えた予防を行ってください。

曇雨天が続いていたこと、数量が一時的に増えたことで樹勢低下していますので、樹勢維持に努めてください。

#### ミニトマト

日中の直射日光により果実の日焼けが出る恐れがありますので、2重ビニールを利用し、日焼け防止をしてください。コナジラミの防除は収穫終了まで継続して行ってください。

併せて次年度作の準備も計画的に行いましょう。特に青枯れ、褐色根腐病等の土壌病害が発生した圃場については、必ず陽熱消毒や土壌還元消毒を行ってください。センチュウ対策も忘れずに。

#### 大玉トマト

日中の直射日光により果実の日焼けが出る恐れがありますので、2重ビニール

を利用し、日焼け防止をしてください。コナジラミの防除は収穫終了まで継続して行ってください。

併せて次年度作の準備も計画的に行ってください。特に線虫や褐色根腐病、青枯病などの土壌病害虫の被害が発生した圃場や土壌については、必ず陽熱消毒や土壌還元消毒を行ってください。

#### イチゴ

収穫が終わった圃場は、速やかに株の処理を行い、土壌消毒の準備をして下さい。来シーズンの為の大切な作業です。十分に陽熱消毒の期間がとれるように段取りをお願いします。

また、土壌分析の早めの提出を行い、計画的な施肥をよろしく願います。

#### ブドウ

灰色カビ、晩腐などの病気はもちろんですが、高温・乾燥によりハダニやスリップスが発生しやすくなるため、注意してください。発生時期によっては加害する部位も違うようです。軸が黒くなった、実に傷が入って商品価値が著しく低下します。適期での防除が必要です。また、果実肥大期のホライズン(DF)の使用は、花粉の溶脱に十分に注意してください。

#### 【防除】

アブラムシ類・ハマキムシ類  
混用  
ダイアナWDG 5000〜10000倍

晩腐病・べと病・褐斑病  
ホライズン(DF) 2500倍

べと病  
レーバス(FL) 2000〜3000倍  
※縮果症対策  
水廻期の摘房や枝整理は、縮果症を招く為に行わないようお願いいたします。

#### キンカン

新梢の伸長を促進し、母枝の充実を図るため、最低15℃以上で管理してください。発芽後は、新梢の充実を図るため、昼温は25℃を目安に管理し、温度が上がりにすぎないように注意してください(30℃を超えると緑化前に花芽が上がってきます)。

また、花の1ヶ月前までには除草剤等で雑草の除去や防除を徹底して下さい。(スリップスとカイガラムシ対策) 水管理は、根痛みしない程度にたっぷり灌水を行ってください。6月上旬から蒸し込みを行い、出蕾のピークを確認したら、温度を下げていきます。

出蕾したら10日程度で、開花します。この一番花の開花を6月25日頃になるよう目指して行ってください。  
※開花期間中は、午前中の樹上灌水及び農薬散布は行わないようお願いいたします。

#### 【防除】

アザミウマ類・カイガラムシ類  
モスピラン(顆粒) 2000倍 14日  
アザミウマ類  
スピノエース(FL) 5000倍 7日

混用  
灰色かび病・黒点病  
ストロビー(DF) 3000倍 14日